

栗駒山登山者の安全を守る！

平成29年地域政策研究センター地域協働研究【ステージⅡ】採択課題

課題名：栗駒山火山ハザードマップの普及啓発に関する研究
研究代表者：総合政策学部 教授 伊藤英之
課題提案者：岩手県総務部総合防災室 横森宅弥
技術キーワード：ハザードマップ、登山者対策、硫化水素ガス

▼研究の概要（背景・目標）

本研究では登山者への安全対策の一歩として、登山者向けの栗駒山火山ハザードマップの作成を行った。さらに2018年度は火山ガス濃度の連続観測を行い、登山道・昭和湖の硫化水素濃度についてバックグラウンドデータを取得した。

▼研究の内容（方法・経過）

1. 登山者向け火山ハザードマップの作成
2. 硫化水素ガスセンサー設置
3. ガス濃度分析

▼研究の成果（結論・考察）

1. 須川温泉ビジターセンターにマップを配置
2. 昭和湖から高濃度の硫化水素ガスが噴出
3. 地獄谷から国の環境基準を超える硫化水素ガスが噴出していることを明らかにした。
4. ガス噴出を受け、栗駒山火山防災協議会は、2019年5月以降、須川コース登山道を当面閉鎖する措置を行った。

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. 期間を通しての瞬間最大濃度は大地獄谷センサーにおいて、38ppm（2018年8月10日）、昭和湖センサーにおいて334ppm（2018年8月19日）であった。
2. 本調査結果を「岩手の火山活動に関する検討会（座長：齋藤徳美岩手大学名誉教授、事務局：岩手県総合防災室）へ報告した結果、火山ガス事故のリスクが高いとして、2019年の山開き以降、須川コースの通行止めが決定した。また、岩手県生活環境部自然保護課との調整の結果、来年以降、本学の連続観測継続が決定した。



図1 登山者向け栗駒山火山ハザードマップ

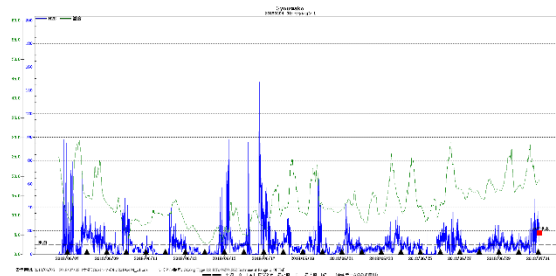


図2 観測データの一部

